

原 著

痛みを伴う処置を繰り返し受ける子どもの 反応と影響要因

Influence factors associated with children's
responses to painful procedures

堅田 智香子・西村 真実子・津田 朗子*

石川県立看護大学

金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻看護科学領域*

Chikako Katata, Mamiko Nishimura, Akiko Tsuda*

Ishikawa Prefectural Nursing University

Department of Clinical Nursing, Division of Health Sciences, Graduate School of
Medical Science, Kanazawa University*

キーワード

痛みを伴う処置場面, 子どもの反応, 影響要因

Key words

painful procedure scenes, children's responses, influence factors

要 旨

本研究の目的は、痛みを伴う処置を受ける子どもの不安や恐怖を「処置を繰り返し受ける過程に見られる子どもの反応の変化」で評価し、子どもが処置を繰り返し受ける過程で自ら主体的に取り組めるようになるまでの変化と、その変化に影響を与える要因を明らかにすることである。

同一児が痛みを伴う処置を繰り返し受ける過程をビデオ撮影したものから作成されたリスト表を基に、82の子どもの反応の変化を読みとり、その変化に影響を与える要因との関係を分析した。その結果、子どもが処置を繰り返し受けることで見られた変化には、看護師の「覚悟や頑張りを促すケア」「抑制」「子どもの要求に応じた情報提供」が関係し、情報提供がなく処置が行われる場合は子どもの不安を助長する可能性が示唆された。さらに覚悟や頑張りを促すケアの積み重ねにより、子どもは看護者に自己の頑張りを認められたと感じ、本来子どもが持つ力で主体的に対処行動がとれるようになると推測される。今後はさらに場面数を増やし、子どもの反応とその変化をもたらす要因を明らかにする必要がある。